

糸島市地域交通計画

- 発展ある公共交通をめざして -

平成23年3月
糸島市

目 次

序章 はじめに	1
第1節 背景と目的	(1)
第2節 計画年次	(2)
第1章 糸島市の公共交通の現状と課題	3
第1節 糸島市の概況	(3)
1 位置・地勢	(3)
2 糸島市の特性	(4)
3 自家用車への高い依存度	(6)
第2節 糸島市の公共交通の現状	(9)
1 鉄道	(9)
2 コミュニティバス	(11)
3 路線バス	(19)
4 バス交通に対する満足度	(21)
5 渡船	(22)
6 公共交通不便地域	(23)
第3節 糸島市の公共交通の課題	(27)
1 鉄道の課題	(27)
2 コミュニティバスの課題	(27)
3 路線バスの課題	(28)
4 渡船の課題	(28)
5 公共交通不便地域の課題	(28)
第2章 糸島市地域交通計画	29
第1節 地域交通計画の考え方と基本方針	(29)
1 公共交通に求められる役割	(29)
2 基本方針	(31)
3 重点プロジェクト	(32)
第2節 地域交通計画の施策	(33)
1 全公共交通機関	(33)
2 鉄道	(34)
3 コミュニティバス	(36)
4 路線バス	(44)
5 渡船	(46)
6 公共交通不便地域	(47)
第3節 地域交通計画のまとめ	(49)
第3章 資料編 (公共交通に関するアンケート調査結果)	50

序章 はじめに

第1節 背景と目的

交通政策を取り巻く社会経済情勢は、少子高齢化の進展、環境問題への関心の高まり、自治体における厳しい財政状況などにより、大きく変化しています。

本市は、旧前原市、旧二丈町、旧志摩町の糸島1市2町が、平成22年1月1日に合併し、人口10万人、面積216.12k㎡の市となりました。

公共交通においては、合併後の平成22年1月4日に各市庁舎間を結ぶバス路線「庁舎線」の運行を開始しましたが、その他のバス路線は、旧自治体の体制を新市に引き継いだままとなっています。

本市北東部においては、九州大学の伊都キャンパスへの移転が本格化し、平成13年に産学官が連携して策定した「九州大学学術研究都市構想」に基づくまちづくりが進められています。平成20年4月には、コミュニティバス路線「九大線」を新設して九州大学へのアクセス向上を図り、学生や教職員などの市内居住を推進しています。

一方、中山間地域などでは高齢化が進み、公共交通の整備は要望が多く、緊急に検討しなければならない課題となっています。

交通網の整備は、市民福祉の維持・向上だけでなく、市街地活性化を図る観点からも極めて重要な施策であることから、具体的な事業計画やスケジュールなどについて交通事業者や関係機関と協議を進めてきたところです。

本計画は、社会情勢の変化を踏まえ、公共交通不便地域を縮減し、高齢者をはじめとした多様な交通ニーズに対応するため、総合的な視点から、交通体系を構築することを目的とするものです。

図1 糸島市概略図



第2節 計画年次

本計画は、将来の公共交通（鉄道、バス、渡船）のあり方を明らかにするものであり、将来のまちづくりの指針となる『糸島市長期総合計画』などの上位関連計画と密接な連携を図るものです。

本市全体の交通網整備については、相当な費用と準備期間を必要とすることから、本計画の計画年次を平成23年度から平成32年度の10年間とします。

ただし、第2章の地域交通計画の施策については5年間とし、必要に応じて見直すこととします。

なお、本計画の推進にあたっては、施策ごとに具体的でわかりやすい数値目標を設定するとともに、PDCAサイクル手法を導入して改善しながら、市民ニーズや社会情勢の変化に柔軟に対応していきます。

■ 計画年次：平成23年度～平成32年度（10年間）

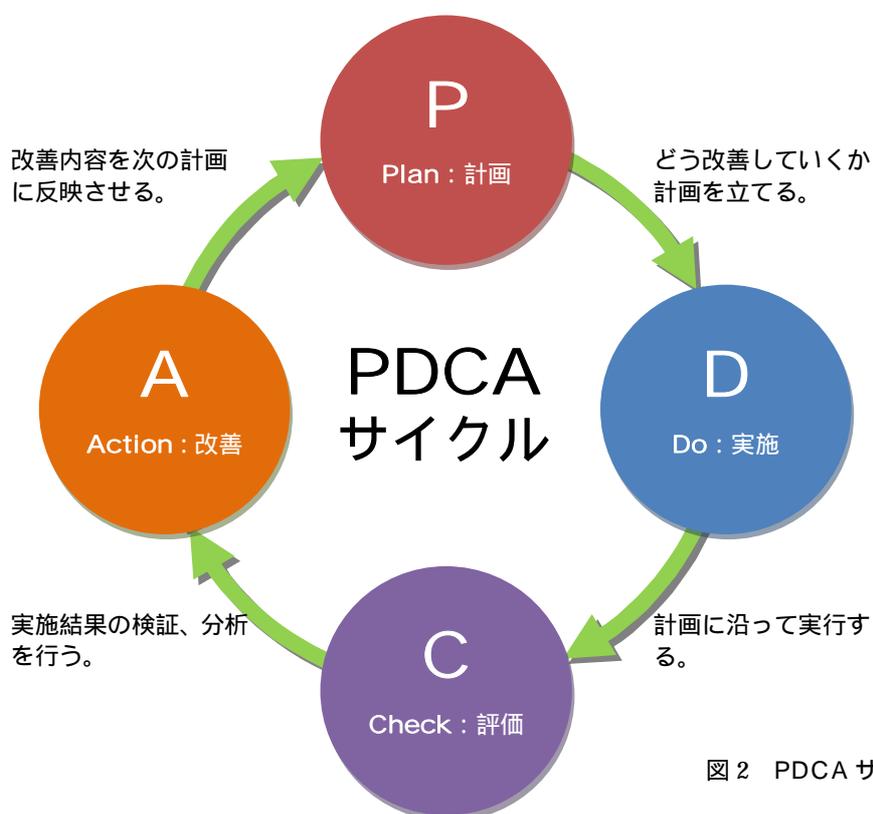


図2 PDCA サイクル図